

森林やまがた

No.155

2015.1



山形県森林協会は、『美しい森林づくり推進国民運動』を推進しています。



目次

新年のご挨拶.....	2	「森づくり活動報告会」開催のお知らせ.....	13
平成26年度川村造林記念山形県林業賞.....	3	「森のホームステイ」開始のお知らせ.....	13
森林・林業・環境機械展示実演会.....	4	林道 両所線 年度内開通.....	14
山形県特用林産振興協議会の開催.....	5	「村山版」森林ノミクスが始まっています.....	15
第28回山形県きのこ品評会の開催.....	6	企業局の森事業(企業局絆の森 月山仁田山)	
森林技術担当者現地研修を終えて.....	7	開始式開催.....	16
みどりのページ		村政施行60周年記念	
NTT山形グループによる緑の募金.....	8	第15回鮭川きのこ王国まつり.....	16
「サクラを育てる」講演会.....	8	しらたか版「木の駅」始動.....	17
センターピックアップ		飯豊町「木の駅」プロジェクトについて.....	17
山形県におけるカラマツ資源量の把握.....	10	庄内森とみどりのフェスティバル2014.....	18
森の人紹介		山形県の古木・名木、公共木造施設.....	19
庄司樹さん・下山邦彦さん.....	11	平成27年度みどり環境公募事業募集開始のお知らせ.....	20
平成26年度第2回やまがた緑県民会議開催.....	12		

新年のご挨拶

山形県農林水産部

林業振興課長 佐藤 新

平成二十七年の新春を迎え、謹んでお喜び申し上げます。

皆様には、日ごろ、本県の森林・林業・木材産業の振興について、多大な御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、昨年十月、本県金山町において、皇太子殿下のご臨席を仰ぎ、第三十八回全国育樹祭が盛大に開催されました。皇太子殿下からは、「多くの県民が森づくりに参加し、県民全体で支える森づくり運動が展開されていると聞き、大変心強く思います」とのお言葉を賜りました。大会の開催に御尽力・御協力をいただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

さて、本県は、全国で第九位となる六十七万haの森林を有し、日本一の面積を誇るブナの天然林など、豊かな森林資源に恵まれています。また、戦後植栽されたスギを中心とする人工林は、いよいよ成熟期を迎えつつあり、その資源量は毎年百万m³以上成長しています。

これらの森林は、木材の供給や水資源のかん養、県土の保全など、県民の生活環境を支える多様で大切な役割を果たしており、次世代に継承していかねければならない県民共有の財産であります。

森林の機能を持続的に発揮させ、健全な森林を次世代に継承していくには、森林の適正な保全・管理を進めながら、人工林資源を積極的に利用した持続可能な収益性の高い森林経営を推進していくことが重要です。

一方、近年の木材を巡る状況を見ますと、アジア諸国の経済成長に伴う需要増大や円安等を背景に、国産材の輸出が増大するとともに、輸入材との価格差も無くなって、我が国の木材自給率は上昇傾向にあります。

国では、豊富な森林資源を循環利用し、林業の成長産業化を進めるとしており、CLT（直交集成板）の普及やセルロースナノファイバーの技術開発等による新たな分野での木材需要の創出、国産材の安定的・効率的な供給体制の整備、林業等を担う人材の育成等の事業を重点的に推進しています。

このような中、県では、川上から川下までを一体的に捉えた「緑の循環システム」を形成し、地域の豊かな森林資源を「森の恵み」、「森のエネルギー」として付加価値をつけながら活かしていく「森林（モリ）ノミクス」をオール山形で推進し、林業・木材産業の振興を図ることで、UJiターンも含め若者等の新たな雇用の場を創出し、中山間地域の活性化に結び付けていくこととしています。

具体的な取組みとして、現在、新庄市に十二万m³/年の原木を利用する集材工場の立地が計画されるとともに、鶴岡市では五万ト/年の木質バイオマスを利用する発電施設が整備中であるなど、県内各地域で、森林資源を有効活用する事業が進められています。

こうした取組みにより、これまで県内の木材需要の大半を占めていたA材の製材利用に加え、B材やC・D材の利用が大幅に拡大することが見込まれており、今後は、A～D材の需要拡大をバランス良く進めながら、県産木材を余すことなく有効に活用していく必要があります。

一方、川上では、こうした木材需要の急増に対応して、県産木材を効率的かつ継続的に安定供給していくことが求められており、森林施業の集約化や低コスト林道の整備、高性能林業機械の導入、それらを担う人材の確保・育成等の取組みを早急に進めてまいります。

また、木材生産を含めた森林の多面的機能を持続的かつ高度に発揮させていくため、治山事業などの公的な森林整備により災害に強い森林づくりを進めるとともに、再造林等による的確な更新や病害虫の被害対策等を進めてまいります。

県といたしましては、「森林（モリ）ノミクス」による林業・木材産業の振興と中山間地域の活性化等を推進するため、関係者の皆様としっかりと連携しながら、川上から川下までの総合的な取組みを積極的に進めてまいりたいと考えておりますので、皆様の御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、本県の森林・林業・木材産業のますますの発展と、皆様の御健勝を心から祈念申し上げます、新年の御挨拶といたします。

〔県林業振興課〕

荒木俊男氏・加藤善次郎氏が受賞

川村造林記念山形県林業賞は、本県の第二十三代知事、川村貞四郎氏が寄贈された山林を基金として、本県の民有林林業の振興・発展に貢献した個人、又は団体を対象に表彰しているもので、昭和三十九年に創設されました。

森林・林業・木材産業、及び山村の振興において、積極的かつ計画的な活動等により、他の模範となる功績のあった方々を市町村長から推薦していただき、県の表彰審査委員会において審査のうえ、決定しています。

昭和四十年の第一回表彰以来、本年度までに受賞された方の数は、個人五十三名、十六団体となっています。本年度は、西川町長から推薦のあった「荒木俊男氏」と、南陽市長から推薦のあった「加藤善次郎氏」が受賞されました。

表彰式は、昨年十一月二十日に山形市の山形県郷土館「文翔館」において行なわれ、細谷副知事から表彰状と記念の楯が授与されました。



◆荒木俊男氏

荒木俊男氏は、長年にわたり、本県の森林整備や木材利用等の推進に携わり、平成二十年から西村山地方森林組合の組合長として、高性能林業機械の導入や林内路網の整備、林産事業班の育成等による素材生産体制の強化に積極的に取り組み、地域林業の発展に尽力されました。

◆加藤善次郎氏

また、「大江町美しい森林（もり）づくり協議会」の会長を務め、西山杉の製品の首都圏への出荷、西山杉材を使用した大江町型住宅のPR等を推進し、西山杉のブランド化と利用拡大に取り組むなど、地域振興に多大な貢献をなされました。

加藤善次郎氏は、林業の実践を通して卓越した林業技術を有し、昭和五十六年に県林業士の認定を受け、後輩林業士を始め、行政・森林組合等の職員を対象とする技術講習会の講師を務め、除間伐の選木技術書を発刊するなど、林業技術の普及と後継者育成に尽力されました。

また、スギ優良大径木生産を目指した計画的な間伐や天然林整備に取り組み、地域の模範となる林業経営を実践し、森づくりのリーダーとして、地域林業の振興に多大な貢献をなされました。

受賞されました皆様から心からお祝いを申し上げるとともに、ますますのご活躍を祈念申し上げます。

〔県林業振興課〕



寒い冬にも、やっぱり「きのこ」!

きのこは低カロリーで栄養豊富な健康食品です。

きのこパワーで健康生活! “毎日食べよう山形きのこ”

山形県きのこ振興会

〒990-2339 山形市成沢西4-9-32 ☎023-688-8100

第三十八回全国育樹祭記念行事 森林・林業・環境機械展示実演会



両日とも、県内外から多くの人が訪れ、来場者は機械展過去最高の約一万六千人となりました。特に、東アジア唯一の機械展ということで、韓国からの視察団など、外国からの来場者もありました。



オープニングテープカット

十月十二・十三日の二日間、新庄市の新庄中核工業団地内NOK(株)社有地において、第三十八回全国育樹祭の記念行事「森林・林業・環境機械展示実演会」を開催しました。開催期間中は、接近する台風が心配されましたが、初日は快晴に恵まれ、二日目も閉会までなんとか雨に降られず開催することができました。六十五の企業・団体による五百機種以上の機械が展示され、各ブースでのデモンストレーションなど、大変な盛り上がりを見せていました。

機械展の開催にあたっては、関係市町村、林業団体等の協力をいただきながら、山形ならではの企画で、全国からの皆様をお迎えしたところ
です。
出展は、建機メーカー、林業機械専門メーカー、輸入商社、機械リー

ス・レンタル企業等による展示であり、最新鋭の高性能林業機械の展示・実演については、今後、普及拡大を図るためにも、大変意義深いものとなりました。特に、今回の機械展においては、木質バイオマス関係の機械が多く展示されており、木材破砕機、薪割機など、近年のニーズにあつた展示、実演でありました。

また、チェーンソー関係ブースでは、チェーンソーの世界最高の技術が披露され、多くの来場者を魅了していました。

一方、県産の農産物を中心とした物販・飲食コーナーでは、地元の物産協会や商工会など十九団体が特産品や地域の食材を使った飲食を提供しました。来場者からは大変好評で、早々に完売となる出展者もありました。



来場者で賑う物販・飲食コーナー



自走での展示機械の撤収

今回、多種多様な林業機械を目にすることができたことは、大変、有意義であったと思っております。また、林業関係者のみならず、一般の多くの方々にも見ていただいたことは、森林・林業を御理解いただく、よい機会であったと思われまます。
本県における高性能林業機械の保有台数は五十二台(平成二十四年)とまだまだ少ない現状にあります。
今回の機械展は、県内の森林組合、素材生産業者にとっても、今後の低コスト作業システムを構築していくうえで、大いに参考になったのではないのでしょうか。

〔県林業振興課〕

関係者一丸となった取組みで特用林産物の振興を！

山形県特用林産物振興協議会の開催

◆はじめに

本県の豊かな森林から生産されるきのこ・山菜等の特用林産物は、中山間地域等の所得向上、及び雇用機会の創出に貢献し、農山漁村地域の産業や文化、地域コミュニティ等を支える基盤となっております。

このようなことから、特用林産物の振興については、県が目指している「食産業王国やまがた」を支える上で、大変重要な施策となっております。県では平成二十五年三月、「山形県特用林産物振興方針」(以下、「振興方針」という。)を定め、特用林産物の生産振興等を図っているところです。

◆山形県特用林産物振興協議会

本協議会では振興方針の策定や計画の進捗状況、特用林産物の振興に必要な指導、助言に関することについて、毎年、協議を行っています。きのこアドバイザー、山形県きのこ振興会、山形県木炭文化協議会、流通関係者、生産者、行政関係者などにより構成されています。

昨年十月十六日(木)に、今年度の協議会を山形市の山形県自治会館

で開催しました。はじめに、副会長の佐藤林業振興課長からあいさつをいただき、次の議事に入りました。

①県内の特用林産物の生産状況

平成二十五年の特用林産物の生産状況について報告を行いました。その中で生産量は、次表のとおり、きのこ類、山菜類については前年比で減少となっております。

近年の生産量は震災や価格低迷などで減少しており、まだ、震災前に回復していない状況となっております。

平成25年特用林産物生産量

品目	単位(t)	前年比(%)	備考
きのこ類	9,738	94.3	なめこ 3,755 t (全国3位)
山菜類	689	88.6	
樹実類	159	107.1	わらび 279 t (全国1位)
木炭類	256	104.2	

②平成二十六年年度の特用林産物振興に係る取組状況について
今年度の取組状況について意見交換を行いました。

山の幸総合対策事業による生産者支援や需要拡大。緊急雇用創出事業を活用した生産現場での技術指導や消費拡大のための普及活動。流通品目の放射性物質検査の実施や、各地域での生産者研修、PR活動について報告を行いました。

委員からは取組み内容及び考え、放射能や燃油高騰、電気料値上げの影響などについて意見をいただきました。

③平成二十七年度の特用林産物振興に係る施策について

来年度の計画について意見交換を行いました。

振興方針において定めている推進方向

- 1 特用林産物の安定供給体制の整備
- 2 特用林産物の流通・販売の促進
- 3 特用林産物の6次産業化への促進
- 4 特用林産物を活用した農山漁村地域の活性化

に基づく事業の実施及び各地域の実施計画について報告を行いました。

委員からは生産者の高齢化や後継者対策、施設の更新などについて意

見をいただきました。

④白色系なめこの生産振興について
県森林研究研修センターにおいて試験研究を実施し作出した白色系ナメコの生産振興について意見交換を行いました。

委員からは、料理法など普及促進の取組みなどについて意見をいただきました。

◆今後に向けて

振興方針に基づく施策の進行管理等について、委員より助言をもらい概ね了承を得られました。

今後とも本協議会において、特用林産物の振興について御意見をいただき、各種施策を展開してまいります。



山形県特用林産物振興協議会の模様

〔県林業振興課〕

県産きのこのさらなる品質向上を目指して逸品が集合！

第二十八回山形県きのこ品評会の開催

◆県内きのこ生産者の逸品が集合

昨年(金)の十二月十一日(木)、十二日(金)の二日間にわたって、第二十八回山形県きのこ品評会が、新庄市の「最上広域交流センターゆめりあ」を会場に開催されました。

この品評会は、きのこの品質と栽培技術の向上を図るとともに、生産意欲の高揚を図り、きのこ産業の振興発展に寄与することを目的としています。山形県きのこ振興会が主催し、毎年この時期に開催されています。今年も県内各地の生産者から見事なきのこが出品され、生シイタケ、ナメコ、エノキタケ、ヒラタケ、マイタケ、ブナシメジ、エリンギの七品目、七十一点について審査されました。

◆農林水産大臣賞は荒木正人さんに

十一日(木)に開催された審査会では、渋谷巖氏を審査委員長とする九名の審査員により、傘の形や厚み、色など数項目について審査が行われました。

その結果、主な受賞者は次のとおりとなりました。

【農林水産大臣賞】

荒木 正人 氏(鮭川村)

生しいたけ(菌床栽培)

【林野庁長官賞】

木村 勇智 氏(最上町)

生しいたけ(菌床栽培)

【山形県知事賞】

木村 喜実生 氏(最上町)

まいたけ(菌床栽培)



審査の様

翌十二日(金)には会場の交流広場にて展示会が開かれ、訪れた人からは、見事に栽培されたきのこの形や色、品揃いの素晴らしさに見入っ

ていました。

その後、表彰式が執り行われ、主催者である山形県きのこ振興会会長の太田純功氏から「昨今の厳しい状況の中、地道な努力と工夫で質の高い出品が多かった。今後も益々活躍いただきたい」と出席者に対し挨拶が述べられました。

次に審査委員長から講評が述べられ、「審査基準に基づき厳正に審査させていただいた。形質、色、つやなどが優れていたものを賞に選ばせていただいたが、甲乙つけがたい作品が多かった」と話してくださいました。

続いて、審査報告が発表され、農林水産大臣賞及び林野庁長官賞、県知事賞、優秀賞五点、優良賞十点、合わせて十八名の方に対し各賞が授与されました。

農林水産大臣賞を受賞した荒木正人さんは「また受賞できるよう今後がんばるようにしたい」と受賞された感想を話してくださいました。

また、表彰式後に行われた即売会では品評会に出品していただいた見事なきのこが訪れた方々に販売され、瞬く間に完売となりました。

次回も、より多くの生産者から出品していただき、栽培技術の高さを披露していただきたいと思えます。



林野庁長官賞
木村 勇智 さん

農林水産大臣賞
荒木 正人 さん

山形県知事賞
木村喜実生 さん

◆きのこの消費拡大に向けて

最近のきのこ生産は、燃油価格高騰や電気料値上げに伴い生産コストが増大しており、節電等の取組みによるきのこ栽培への影響が懸念されていますが、きのこの栽培技術は進歩しており、今年も出品されたきのこは品質がよく見事なものばかりでした。

県では、今後とも県産きのこのブランド力のアップを目指し、品質向上に向けた取り組みを推進するとともに、キャンペーンなどを通じて、県産きのこのさらなる消費拡大につなげてまいります。

〔県林業振興課〕

森林技術担当者現地研修を終えて

◆はじめに

近年、異常な豪雨により全国各地で山地災害が多数発生しており、本県においても南陽市を中心に局地的な豪雨により二年連続して甚大な被害が発生しております。また、融雪期においても、昨年は戸沢村で、今年は大江町で地すべりが発生し、特に戸沢村では避難勧告が出されるなど緊迫した状況が続きました。

災害対応業務は、迅速な対応が求められ、特に初動対応が重要となります。初めて業務に当たる職員にとっては、何から、どのように始めていくのかわからないのが現状です。また、国庫補助事業での復旧となれば、限られた期間内での復旧計画の策定が必要になります。

このようなことから、森林技術担当者の若手職員を中心に、災害対応業務をメインとした研修会を、十月一日から一七日にかけて開催しました。

◆研修内容

○テーマ

「南陽市漆山地内（織機川上流）における山地災害及び林道中沢線の復旧対策について」

○検討方法

総合支庁から参加した一〇名と林業振興課の四名、計一四名が三班に分かれて現地調査を行い、土石流が発生し、全線にわたり被災した林道中沢線と並行する溪流の効率的な復旧計画について検討しました。

○現地調査

検討に当たっては、保全対象の確認、被災状況の確認（規模等）、二次災害の危険性の有無、他所管の施設の有無、保安林・地すべり防止区域・砂防指定地の指定状況の確認、国庫補助の採択要件を満たしているかどうか等をポイントとして調査しました。

現地では、「この転石の発生源はどこでしょう」、「ダムは何基必要でしょうか」、「林道の復旧は、治山の仮設道で対応できませんか」など、若手職員が先輩に質問すると、「仮設道で対応するのはいい考えだね」とやさしく答えるなどし、班員一体となって調査を実施していたようです。

調査終了後、白鷹町での被災現場を視察しながら森林研究研修センターに移動し一日目を終えました。



現地研修の状況

○取りまとめ及び発表

二日目は、センターの会議室で現地調査の取りまとめを行い、平面図、縦断面図に復旧計画を記入し、班毎に復旧計画の方針と内容について発表しました。発表では、短時間での取りまとめにも関わらず、「林道の復旧を考慮した場合、低ダム群により土砂の移動を防止するのが最善では」などの具体的な計画が発表されればべ

るの高いものになったと思います。また、発表終了後に、長谷部林道整備主査から「林道施設災害査定について」と題し、今年度の査定を受けての問題点などについて説明がありました。

研修の最後には、梅津森林技術主幹から講話がありました。治山事業

は保安林の整備が目的で、保安林機能を発揮するための補完的施設である。また、林道については、道を作ることが目的ではなく、その道で山や地域がどのように生きていくかを考えることが重要である、などの基本的な考え方について、参加者は熱心に聞き入っていました。



復旧計画の検討状況

◆おわりに

参加者からは、「初めて知ったことが多くあった」、「現地調査時の視点がはっきりした」、「他所管との調整の仕方が理解できた」、「今後も研修会をやってほしい」などの声が聞かれました。これらを踏まえ、今後も研修会を開催し、更なる森林技術の向上を図っていきたいと思います。

〔県林業振興課〕



みどりのページ

NTT山形
グループによる
緑の募金

◆期 日

平成二十六年十月二十七日(月)

◆募金額

十六万四千八百八十七円

地球温暖化の防止や自然環境保護活動への関心が高まる中、NTT東日本山形支店(古川直子支店長)では、企業としての責任を果たし社会の持続的な発展に貢献していくことを目的としたCSR活動を行っており、その一環として毎年緑の募金にご協力をいただいています。



古川支店長による目録の贈呈

今年も、みどりを守り育てる活動に役立てていただくことを願う同グループの社員八百二十四名から善意が寄せられ、古川直子山形支店長から寄附目録が贈呈されました。

また、同社では美しい地球を未来に「つなぐ」ため、地球の自然環境保護(生物多様性保全)活動を推進しており、山形支店では、昨年度から県民の森湿性植物園をフィールドに、身近な水生生物の生育環境を調査しつつ、その里山環境の保全と水生生物の生育環境保全活動を実施しています。

当財団としては、今後ともこのような活動を支援して参りたいと思います。

「サクラを育てる」講演会
「サクラとその文化を
育んできた日本」

◆概要

公益財団法人山形県みどり推進機構では、長年にわたって県内の緑化を推進してきており、山形新聞・山形放送が取組んでいる最上川流域へのサクラの景色づくりにも十九年余り携わってきました。

また、美しい山形・最上川フォー

ラムとも連携し、「サクラ守」育成のための研修会などを開催しています。

この度、山形県の母なる川「最上川」の流域や、その上流の山々に咲き続けるサクラについて様々な角度からとらえ、サクラの持つ新たな可能性とその未来について考える機会にしたいと考え、日本のサクラ研究の第一人者であります東京大学の大場先生を講師にお招きし、「サクラとその文化を育んできた日本」と題して講演会を開催しました。

◆期 日

平成二十六年十一月二十八日(金)

◆場 所

山形県土地改良事業団体連合会

◆主 催

(公財)山形県みどり推進機構

◆後 援

山形新聞・山形放送、美しい山形・最上川フォーラム、(公財)山形県林業公社、山形県土地改良事業団体連合会、(二社)日本樹木医会山形県支部

◆講 師

東京大学名誉教授 大場秀章氏

◆参加者数 約百名

◆内 容

ユーラシア大陸の東端に生まれた日本列島、その日本列島が偶然にも



熱心に聞き入る参加者の皆さん

森の国として生まれ、人々が森と共に生活を営んでいく過程で、森や里からサクラを見いだし、サクラの国になったことについて講演いただきました。

我々になじみの深い万葉集には、ハギ(百四十一首で一位)やウメ(百十九首で二位)などの植物が多く詠まれていましたが、サクラ類は七番目にあたる四十四首で詠まれており、この時代にはまだまだサクラを愛でる文化は育まれていませんでした。その理由のひとつとして、京を取り巻く森林が照葉樹林で占めら



みどりのページ

れており、森林にはサクラ類が少なかつたことが伺われます。

また、関東地方の伊豆半島を中心に分布しているオオシマザクラが京に持ち込まれ、オオシマザクラとの交雑で生まれたサトザクラ（ヤエザクラ）が誕生したことなど興味深いお話を聞きできました。

特に、江戸時代には、自然や植物への愛好志向の高まりとともに園芸技術が更に発達し、八代将軍徳川吉宗が隅田川の土手や上野などにサクラを植え、遊興の地（公園）を設けたことが植物を愛する層が庶民にまで拡大し、園芸が大衆化したことなどを教えていただきました。

また、日本列島に自生している様々な野生のサクラや種間交配で作られた園芸種の特徴などを解説していただきました。

日本列島で花開いたサクラが農耕と結びつき、人々に愛でられてきたこと、歴史、文化、生態や分類を織り交ぜた内容であり、大変有意義な講演でした。

〔公財〕山形県みどり推進機構

緑の募金に御協力いただいた企業・団体のみなさま (H26. 10. 1~11. 30)

〔山形県みどり推進機構取扱い分〕

アイ・エム・マムロ(株)、(株)アイタ工業、(株)アサヒ技術、(有)荒井材木店、(株)安藤組、池田機械工業(株)、(株)伊藤熱処理、(有)伊東農園、(株)イヨテクニカル、(株)ウンノハウス、SWS東日本(株)、(株)エスパワー、N T T東日本山形グループ、(株)エフピコ山形工場、エムテックスマツムラ(株)、(株)王祇建設、(株)オオバ、大場印刷(株)、岡崎医療(株)、奥山建設(株)、奥山建設工業(株)、(株)柿崎建設工業、勝川建設(株)、(株)金沢総合コンサルタント、(株)カルイ、菊池商事(株)、北日本特殊イサベラ建設(株)、(有)協友門間商事、共和防災建設(株)、(株)日下部工務所、(有)クラフジ精密、(株)クリーンシステム、(株)後藤工業、コマツ山形(株)、(株)小森マシナリー、蔵王食品(株)、(株)寒河江測量設計事務所、佐藤建設工業(株)、三協コンサルタント(株)、(株)サンユウ技研、(株)三和技術コンサルタント、三和油脂(株)、(株)シェルター、(有)ジョイランチ、城東機械製造(株)、庄内赤川土地改良区、(株)荘内銀行県庁前支店、(株)庄内測量設計舎、庄内たがわ農業協同組合、新庄もがみライオンズクラブ、森林総合研究所山形水源林整備事務所、須川工業(株)、菅原建設(株)、すずき看板、精英堂印刷(株)、大金電子工業(株)、(株)ダイユー、大和工営(株)、(株)高橋組、(株)タカハタ電子、(株)高良山形営業所、田宮印刷(株)、(株)田村測量設計事務所、タンノ清掃興業(株)、中央公害清掃(株)、(株)天童木工、(株)でん六、東北エプソン(株)、東北興産(株)、東北工産、東北電機鉄工(株)山形支店、東北パイオニア(株)、(株)東北緑地造苑、十和建设(株)、内外緑化(株)、(株)ニクニ白鷹、(有)西長合金鋳造所、日本地下水開発(株)、農林中央金庫山形支店、(株)ピンテック、ファイン精密(株)、プッシュ建設(株)、(株)マツダ建設、(有)丸吉製作所、三ツ和工業(株)山形工場、明立工業(株)、(株)最上川環境技術研究所、(株)最上金属、(株)最上振興、(株)モリヤ、八千代田精密(株)、山形いすゞ自動車(株)、山形ガス(株)、(株)山形環境荒正、山形環境保全協同組合、山形空港ビル(株)、山形健康管理センター、やまがた健康推進機構、山形県産業技術振興機構、山形県信用保証協会、山形建設(株)、山形航空電子(株)、山形国際ホテル、山形酸素(株)米沢営業所、山形食品(株)、(株)山形新聞社、山形森林管理署、(株)山形テレビ、山形電子(株)、山形日紅(株)、(株)山形ビルサービス、山形放送(株)、(株)山形ミートランド、(株)山形メイコー、(株)山本製作所、(株)ライナー、(株)理研分析センター、(株)渡辺、渡辺印刷、(株)渡部砂利工業所、(株)渡会電気土木

(敬称略、五十音順)

ご協力ありがとうございました。

山形県における
カラマツ資源量の把握

乾燥とともにひどくねじれる木材ほど使いづらいものはありません。

このような木材としてカラマツをイメージする方も多いのではないのでしょうか。強度は高いけれどねじれがひどく、電柱か土木用の杭しか用途が無い。カラマツ材をこのように批判してきた時代は長く続きました。

しかし、これはすでに昔話です。現在、カラマツの人気は非常に高く、一部地域では造林需要に対して苗木の供給が追いつけない状況となっています。

加工技術の進歩により集成材の技術開発がなされ、建築物への利用が多くなりました。これにとめない、カラマツ材の需要は格段に高まりました。なぜなら、集成材の基本となるラミナ材としてカラマツ材を利用すれば、これまで大きな欠点であったねじれる特性はほとんど問題とされず、むしろスギ材では実現困難な高い強度を有する木材として重宝されるようになったからです。

カラマツの造林地といえば、北海道、岩手県、長野県が有名です。

一方、日本海側の積雪地帯では造林樹種のほとんどがスギであり、それ以外の樹種は積極的に造林されませんでした。これは全国的な特徴です。

しかし、山形県には積雪の多少に関わらず、県内各地にカラマツ林が散在しています。今後、山形県でも集成材等の用途によりカラマツ材の需要が高まる可能性は充分に考えられ、県内のカラマツ林分の状況を把握しておくことは重要です。そこで、GISを使って県内のカラマツ林がどこに多いか調査しました。

環境省が提供している植生図の中からカラマツ林分を抽出し、それを県内の市町村界図に民・国一緒に重ね合わせたものが図になります。

これを見ると、カラマツ林分は蔵王山系や最上地域に多いことがわかります。カラマツ林の面積を市町村別に集計すると、尾花沢市、最上町、小国町、東根市、上山市に多いことがわかりました。

また、これら地域のカラマツ林分を踏査すると若い林は少なく、およそ五十年程度と思われる林が多く感じられました。五十年前と言えばスギの材価は高く、逆にカラマツの材価が低い時代です。

これを考えると、スギの適地にはスギを植栽し、標高が高いなど何らかの理由でスギが不適と考えた場所にカラマツを植栽したのではないかと筆者は想像します。

このように、カラマツ造林地は県内に多くあ

るものの、それらの成育状況や収穫量等についての情報はあまり多くありません。近隣県と同様に、今後、山形県内においてもスギだけでなくカラマツを造林したいと考える方もいると思います。また、これまでカラマツはスギの不適地に植栽する事例が多かったと思いますが、今後はスギの伐採跡地にカラマツを植栽する事例も出てくるかもしれません。

しかし、現在のところ、このような方たちに対してどういう場所がカラマツの適地であるか、あるいはどのような育林施設を行っていくべきか、情報を提示しにくい現状にあります。

そこで山形県森林研究研修センターでは、平成二十六年から林業技術現地適応化事業として県内各地のカラマツ林の生育状況を調査するとともに、県内四箇所のカラマツ植栽試験地を設定していく計画です。これらによって、どのような立地、気象条件においてカラマツの生育が良いか評価し、山形県における最適なカラマツの育林技術を検討していく計画としています。

〔森林研究研修センター〕

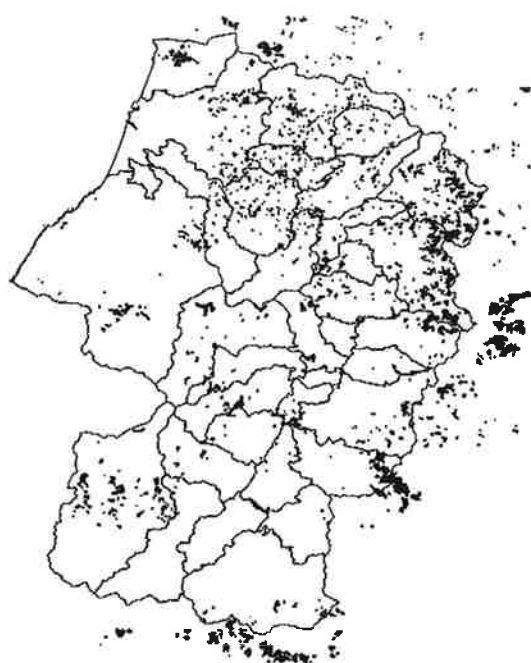


図 山形県内のカラマツ林分の所在地

森の人紹介

村山地域農林水産業者若者賞を受賞

有限会社 庄司林業

庄司 樹さん



大江 町沢口 地区で 高性能 林業機

械を活用した素材生産業に従事しながら、西山杉を活用して、木材の地産地消を推進している庄司樹さんを紹介します。

庄司さんは、元映画助監督という異色の経歴の持ち主ですが、東日本大震災の影響でしばらく仕事がなくなり、自分を見つめなおす機会を得たことが転機となり、林業一家の三代目として、平成二十三年度から父親が社長である庄司林業に戻り、父親の仕事を手伝いながら林業を学び実践してきました。

これまで、林業機械の免許など沢山の資格を取得し、平成二十五年度からは、木の伐採や造材を機械で行う高性能林業機械（ハーベスタやプロセッサ等）のオペレーターとして作業に従事して研鑽を積んでいます。

庄司林業の素材生産に関わる作業員は七名で、伐採・木寄せ・枝払い・玉切り・積込・運搬・巻立の七つの工程で作業を行っています。これまで人力で行ってきた一番労力を要する枝払い・玉切りの部分を、コンピュータ制御で瞬時に作業を行える高性能林業機械を導入して効率化を図り、新たな作業システムとして実践したことは地域林業に対する普及効果が大きいものがあります。

また、山の資源や文化を生活に取り入れてもらおうと、平成二十四年十一月に「山業ビジネス&プロジェクト」と銘打ったグループを立ち上げ、県内の有志と共に山を基点とした生業づくりを目指しています。具体的には、町内の若者や企業と連携しながら、独自のブランドとしてナラ枯れの被害木を材料にした蝶ネクタイなどアパレル小物の製品化を手掛けるとともに、ワークショップを開催し、地元素材を利用する地産地焼社会の雰囲気づくりをテーマに活動を行っています。

※地産地焼社会（ちざんちしょうしやかい）：地元にある森林資源を地元で薪などのバイオマス燃料として燃やすという意味の造語

〔村山総合支庁森林整備課〕

森の人紹介

新しいことへの挑戦

株式会社下山製材 代表

下山 邦彦さん



下山さん（最上町）は、先代から引き継いだ（株）下山製材所で、良質な地域材を提供することを一つのコンセプトに日々仕事に励んでいます。

（株）下山製材所の起源は大正時代まで遡ります。当時は、水路を流れる水の力を利用して、製材を行っていたそうです。平成元年四月に法人化した現在は製材部門に加え、建築・リフォームや新建材など様々な分野で活躍する会社に成長しました。

また、平成十八年度から、最上町が推進している「バイオマスエネルギー地域システム化事業」にも参加しています。その後、平成二十一年度に（株）もがみ木質エネルギーを設立、バイオマス事業を展開し、約二五七haの森林経営計画の認定を受けて、年間の木質チップ生産量は原木換算で五千mにおよび、町が運営する総合福祉施設「ウエルネスタウン」に

供給されています。

「次世代の若者が森林の仕事を引き継いだ時に良い山であってほしいから率先して森林整備に取り組んでいる」と語る下山さん。そんな下山さんは、「もがみ杉」のPR活動も行っており、最上町の建具店、畳店と共同で「木楽屋」を平成十六年に設立、もがみ杉を使った小物を制作・販売しています。適材適木の精神で木を余すことなく活用しようという二代目職人の新しい挑戦でした。

また、木楽屋は「もがみ手業のものづくり協議会」の会員でもあり、作品展示会やイベントへの参加も行っています。

「製材所も新しいことに取り組まなければならない時代に来ている」と語る下山さん。今後も新しい取り組みへの挑戦に期待します。



木楽屋メンバー
（左から 菅原さん・下山さん・北村さん）

〔最上総合支庁森林整備課〕

平成二十六年 第二回やまがた緑県民会議開催

◆はじめに

やまがた緑環境税を活用した事業の評価と検証を行う「やまがた緑県民会議」の今年度二回目の会議を、十一月十二日（水）に尾花沢市役所で開催しました。午前中は会議を行い、午後からはやまがた緑環境税事業実施箇所を視察していただきました。

◆平成二十六年 事業の取組状況

平成二十六年やまがた緑環境税活用事業の取組状況について報告しました。取組状況は下表のとおりです。



活発な意見が出された第2回県民会議

平成26年度「やまがた緑環境税」活用事業 取組状況一覧

やまがた緑環境税活用事業	事業量（計画）	実施状況（H26.9月末）
荒廃森林緊急整備事業	1,520ha	1,392.3ha 発注済み
森林資源循環利用促進事業	50,000m ³	35,050m ³ 決定済み
広葉樹林健全化促進事業	9,000m ³	5,670m ³ 決定済み
ナラ枯れ被害対策検証事業	5箇所	7箇所
県民みんなで支える森・みどり環境公募事業	111事業	111事業
みどり環境交付金事業	174事業	174事業
やまがた絆の森プロジェクト推進事業	25箇所	25箇所
自然環境保全対策の推進	4事業	4事業
自然環境学習や森に親しむ環境づくりの推進	7事業	7事業
新たな森づくりの推進	年間活動支援、広報	森の感謝祭、森のホームステイ等実施

◆第三十八回全国育樹祭の開催状況

会議では、県民会議の委員も含め、県内外から約五千二百名に参加いただいた第三十八回全国育樹祭の開催状況も報告しました。委員からは、「これまでの緑環境税による多様な取組みの集大成というべき全国育樹祭は素晴らしいイベントだった」との評価をいただきました。

◆平成二十七年 事業の考え方

平成二十七年 事業の考え方について協議し、了承されました。

一 ハード事業

荒廃森林の整備は、全体計画面積の達成に向け、着実に森林整備を進めます。また、間伐材の利用については、木質燃料利用の支援を強化していくとともに、豊かな木のある暮らしの実現に向け、生活空間の木質化などの県民による取組みを支援し、間伐材の有効利用を推進します。

二 ソフト事業

育樹祭開催で高まった森づくりの気運を県民参加の森づくり活動につなげていくため、「やまがた森の日」に開催している「森の感謝祭」をポスト育樹祭と位置付けて開催するとともに、秋の県イベント等を活用し

て、木材や木質エネルギーなどの再生産可能な森林資源を暮らしの中で活用する意義を広く普及していきます。

◆現地視察

午後からの現地視察では、尾花沢市内の荒廃森林緊急整備事業実施箇所や、やまがた絆の森プロジェクト事業の一つ「おーばん琴の森」の活動場所などを視察し、事業への理解を深めていただきました。

〔県みどり自然課〕



現地視察（おーばん琴の森）の様子

「やまがた緑環境税」活用事業 「森づくり活動報告会」開催のお知らせ

県では、ボランティア団体や市町村などが行っている「やまがた緑環境税」を活用した森づくり活動の成果を広く県民の方々に発信するとともに、森づくり活動関係者の連携を深めるため、平成十九年度から森づくり活動報告会を県内四地区で開催しており、今年度も下記日程表のとおり開催いたします。各会場とも事前申込み不要で参加費無料です。是非ご参加ください。

◆開催内容

ボランティア団体や市町村などによる活動報告（ポスター発表・登壇発表）や活動を進めるうえでの課題に関する意見交換、来年度の公募事業募集説明などを行います。また報告会と併せて森づくり活動相談会（事前申込み必要・参加費無料）も行います。



昨年度の開催状況

森づくり報告会開催日程表

地区	置賜 ※講演あり	最上	村山	庄内
開催日	1/17(土)	1/18(日)	1/24(土)	1/31(土)
時間	11:00~15:40	12:00~16:00	12:00~16:00	12:00~16:00
会場	南陽市防災センター (沖郷公民館)	新庄市民プラザ	寒河江市 総合福祉 保健センター (ハートフル センター)	鶴岡市西郷 地区農林活 性化センター

◆問い合わせ先

〔置賜〕置賜総合支庁森林整備課
電話(〇二三八)三五九〇五三
〔最上〕最上総合支庁森林整備課
電話(〇二三三)二九一―一三五〇
〔村山〕村山総合支庁森林整備課
電話(〇二三三)六二一―一八一五六
〔庄内〕庄内総合支庁森林整備課
電話(〇二三五)六六一―五五二四
〔県みどり自然課〕

第三十八回全国育樹祭記念

「森のホームステイ」開始のお知らせ

県では、「第三十八回全国育樹祭」開催により高まった森づくりの気運を引き継ぎ、より多くの方々に気軽に森づくり活動に参加していただくため、やまがた緑環境税を活用して「森のホームステイ」を開始しました。

◆森のホームステイの概要

森のホームステイは、森で採取したドングリや稚樹を家庭や学校、職場などで2年間育ててもらい、再び森に返す活動です。

村山地域はミズナラ、最上地域はコナラ、置賜地域はブナ、庄内地域はカシワとし、地域毎に育てる樹種を定めています。苗木は竹ポットに入れて育ててもらうこととしており、庄内地域の竹林を間伐した竹を利用しました。参加された方々には、育て方マニュアルを配布するとともに、折に触れて成長記録などもお寄せいただくことにしています。

◆スタートイベントと植付け体験

十月二十五・二十六日に開催された「第二十四回山形県林業まつり」及び「やまがた環境展2014」で、スタートイベントと植付け体験を行いました。スタートイベントでは、

県環境エネルギー部長から(福)三瀬保育園の園児に苗木が託され、園児は森のオリジナルソングを披露してくれました。植付け体験では、ご家族を中心約六百名以上の方々に持ち帰っていただきました。苗木を育てながら家族や友人と森の大切さや育てる喜びを感じていただきたいと思えます。



植付け体験状況

◆おわりに

県では、今後とも多くの方々に森づくりの大切さを感じていただけるよう支援してまいります。

〔県みどり自然課〕



林道 両所線 年度内開通

完成に十年 成熟するスギ材を市場へ

林道両所線は、地元の熱心な要望を受け、平成十七年度から県代行業により事業を開始しました。それからちょうど十年を迎える今年度、町制施行六十周年の記念すべき年に、全線が開通する運びとなりましたので、その概要等をお知らせします。

◆概要

両所線は、河北町両所を起点（町道両所山口線）とし、既設の旧両所線、旧後沢線、旧根際線の一部を併合し、林道岩木田代線に連絡する総延長七、二二三m、全幅員四mの二級自動車道で、総事業費は、約五億二千万円を費やしました。利用区域面積は三六三haで、うち人工林の面積が一三一ha、蓄積量が約二万二千m³で、天然林の面積が二三二ha、蓄積量が約二万五千m³です。区域内の森林所有者は一四四人で、西里財産区が約三割の面積を持ち最も大きい所有者となっています。

人工林のうちIVからIX齢級が八割以上の一〇八haを占めており、今後この林道が、成熟しつつあるスギ材の搬出に有効に活用されるものと期

待っています。

◆経緯

平成十七年度に全体計画調査を行い、翌年度から工事に着手しました。既設の三路線と新設路線を連結することにより、一層機能的な林道となるよう計画を立てましたが、既設路線が狭小であるため、規格を統一する改良工事にはひとかたならぬ苦労がありました。しかし、今では「以前は軽トラしか通れなかったが、大きな車も通れるようになり、使い勝手が良くなった」と評判です。



平成26年度施工 4号橋

また、当地区は地形が急峻なことから、新設路線は河川近くを通るルートが多く、そのため橋梁の設置箇所が五箇所にもなりました。

林道両所線 事業費等の推移

年度	事業費(千円)	新設 (m)	改築 (m)	備考
H17	20,000	—	—	全体計画
H18	32,500	320	—	
H19	54,000	1,091	—	
H20	30,000	149	—	
H21	30,000	—	448	
H22	111,250	692	113	
H23	60,000	171	449	H22線越
H24	130,010	80	1,820	H23線越
H25				H24現年
H26				H25線越
合計	521,760	2,503	2,830	計 5,333m

※既設林道根際線1,890mを加え、総延長7,223m

比較的災害に強い林道ですが、平成二十五年七月の豪雨では、法面が大きく崩壊するなどの被害を受けました。国の施設災害復旧事業の採択を受け、関係者の努力により既に復旧工事も無事に完了し、来年春の雪融け後の供用開始を待つばかりとなっています。

◆スギ材を市場へ

県では、充実しつつある森林資源の有効活用を図るため、「育てる林業」から「使う林業」に軸足を移し様々な施策を展開しています。

このような状況の中、当地区でもこの両所線を太い背骨とし、支線となる林業専用道や作業道等を充実させ、高性能林業機械等の導入を促し、搬出コストを低減させ、当地区の森林資源が建築用材や木質バイオマス資源として有効活用されるよう河北町をはじめ地元の皆様と協力して、取り組んでまいります。



平成26年度施工箇所

〔村山総合支庁森林整備課〕

「村山版」森林ノミクスが始まっています

森林資源の活用で、地域振興や雇用創出

◆大江町型住宅 完成

大江町吹越地区の町有林で七十年間風雪に耐え育った「西山杉」を使って建築された新規就農者用住宅の上棟式が十一月十日同町本郷で行われました。

住宅は木造二階建てで、延べ床面積約八十六㎡。地元大江町の匠の技を駆使した使用し板壁内装で、西山材を一〇〇％使用した小屋組みが美しい「大江町型住宅」です。

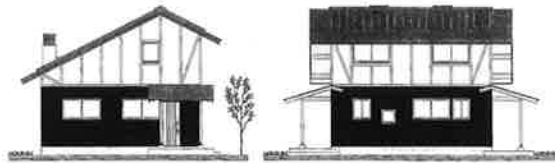


平成26年11月10日 大江町型住宅上棟式

壁に用いた板壁は

通常の三倍の厚みで、地震に強いだけでなく、保温性が高いのが特徴です。

薪ストーブを使用して空気を循環させるため、一部吹き抜け構造を採用し、居住者が農作業を終えてから、室内を汚さずに裏口から自室に入る事ができる実用重視のつくりです。



上棟式には約二十人が参加し、渡邊兵吾町長が「西山杉の活用を通じて人工増加につなげていきたい。」とあいさつ。建築費は約千六百万円。Ｉターンで移住してきた家族連れの新規就農者が一月から入居の予定です。

これを機に、町・県そして「大江町型住宅販売会」が協働して大江町型住宅をPRし、西山杉の利用拡大と地域振興を図っていききたいと思えます。

◆薪の駅 OPEN

村山総合支庁が山形地方森林組合に委託して設置した「薪の駅」が十一月一日、山形市替所の同組合敷地にオープンしました。「薪の駅」では、ストーブ用のナラ薪を通年販売するほか、地域内の薪生産者情報を発信しています。

また、九月からチェーンソーや薪ストーブ販売者、薪生産者の協力を得て薪ストーブユーザーにアンケートを配布しており、「薪の駅」等での回答者、先着二百名に薪一束をプレゼントしています。アンケートでは、薪にかける経費や入手方法、材の長さ・種類、ストーブ利用上で苦慮している点や行政への要望などの情報を収集しています。

県内の薪ストーブ等導入補助金の利用者は過去二年間で三百人を超えており、もともと芋煮会など薪の利用が身近だった村山地域には、千三百人を超える薪ストーブユーザーがいるとも言われています。

薪の入手方法は、割られた薪を購入するだけでなく、河川支障木の配布を受けるなど様々です。また、薪生産体制も様々で、森林組合等事業体の雨天・冬場の雇用対策、地区が地域資源活用として取り組む例、障



平成26年11月1日 薪の駅OPEN式典

害者施設での生産など少量の生産者が多い状況です。

消費地において、薪の利用しやすい環境づくりをすすめていくことは、二酸化炭素の排出削減や循環型社会の構築、森林資源の有効活用はもちろん、森林資源で地域経済の振興を図る「森林ノミクス」の推進に繋がります。

今後は「薪の駅」を中心に薪生産者のネットワーク化を図り、薪が安心・安全で安定した「燃料」として再び市民権を得るよう薪を利用しやすい環境づくりを進めていきます。
〔村山総合支庁森林整備課〕

企業局の森事業(企業局絆の森 月山仁田山) 開始式開催

県では、やまがた絆の森協定に基づき、西川町及び西川町本道寺地区と連携して、水道原水水源域の森林の公益的機能の維持向上を図るとともに、水環境保全活動の重要性の普及啓発並びに森づくり活動を通じて地域との交流促進を図ることを目的に、企業局の森事業に着手したので、その状況を紹介します。

この協定で対象となる森林は、西川町大字月岡字仁田山地内の六・七五haで、去る十月二十一日に、企業管理者、環境エネルギー部長、西川町長、本道寺地区会長ほか関係者四十名が参加して、企業局の森事業開始式を開催しました。

開始式は、関係者の挨拶に始まり、看板除幕、協定代表者による記念植樹の順で行われ、式典終了後に、企業局の職員を中心にブナの植樹活動が行われました。

今後は、平成二十八年度までの三ヶ年で、植栽したブナ林の下刈りや、スギ人工林の間伐四haを実施することとしています。

〔村山総合支庁森林整備課〕



村政施行六十周年記念 ■第十五回鮭川きのこ王国まつり 二〇一四年度全国キノコ食味&形のコンテストin鮭川村

◆はじめに

今年で第十五回を迎える鮭川きのこ王国まつりが平成二十六年十月五日(日)に鮭川村エコパークを会場に開催されました。今回は鮭川村村政施行六十周年記念行事と位置付け、盛大に行われました。

◆内容

新鮮なきのこの販売のほか、きのこ鍋などの飲食物の販売や、原木しいたけ・なめこ植菌体験等も行われました。特に人気があったのは、なめこつかみどりで、鮭川村ならではのイベントに子供から大人までみんなが楽しんで参加していたようでした。



なめこのつかみどり

また、併催行事として「二〇一四年度全国キノコ食味&形のコンテストin鮭川村」も開催されました。このコンテストは二〇一〇年から始まり、キノコの「食味・形」を競うコ

ンテストです。審査員には著名なシェフの方々が迎えています。全国から多くの出品があり、審査員はその品質や食味の良さに頭を悩ませました。



キノコ食味審査

そして、今年度から新たなイベントとして地元中高生らによる「鮭川産きのこ使用の創作ファースト・フード対決」を実施しました。

参加したのは鮭川中学校、新庄東高校、新庄神室産業高校の三校で、それぞれのアイデアが詰まった料理が披露されました。

◆おわりに

今後とも、きのこの品質や栽培技術の更なる向上に取り組み、鮭川村のきのこ産業が発展することを期待します。〔最上総合支庁森林整備課〕

しらたか版 『木の駅』 始動

◆はじめに

白鷹町の補助事業まちづくり助成金を活用してNPOひびきが「木の駅実行委員会」を結成し、十一月八日から指定土場への本格的な集積作業を実施した取り組みについて紹介します。

◆山づくりは町づくりに必ず進む

すでに県内でも別名称で事業が数か所で行われていますが、完全民間主導で行政が後押しする形での実施は白鷹町が初めてだと思います。素人パワーだけで、どこまでやれるか試したかったのも本音です。

出荷イベント当日、十一月八日は関係者を含め六十人以上が会場に集まりました。集積された丸太は四〇m以上、丸太を積んだトラック二〇台以上が行列をつくりました。

今後は順次地域通貨「モリ券」を発行し地元の登録商店でモリ券がどのように使われるのか非常に興味があります。

今回の実証実験の出荷者全員が荒廃した山を何とかしなければと言いう行動の現れの第一歩だったように思います。

平成二十七年以降も継続して木の駅プロジェクトを実施する予定です。



丸太を積んだトラックの行列

継続するためには参加者全員がイキイキして楽しくなければ継続できません。地域事情を考慮して出口づくり等も工夫し更に取り組みやすい仕組みを作りたいと考えています。今後のプロジェクトとモリ券の流通で山づくりは着実にまちづくりに前進すると信じています。山に関心を持ち里山に少しずつ賑わいが戻れば幸いです。

〔白鷹町「NPOひびき」〕

「飯豊町『木の駅』プロジェクト」について

◆はじめに

飯豊町では、化石燃料の普及や木材価格の低迷等により利用が図られなくなった森林資源の積極的な利用を促進するため、『林地残材等集積事業 木づかい実践業務』を新たにスタートしました。これは、間伐材、林地残材等の集積・利用実践事業と併せ、森林の保全と森林所有者の収益の向上を図り、地域資源による循環型社会の構築を目指すものです。この取り組みについてご紹介します。

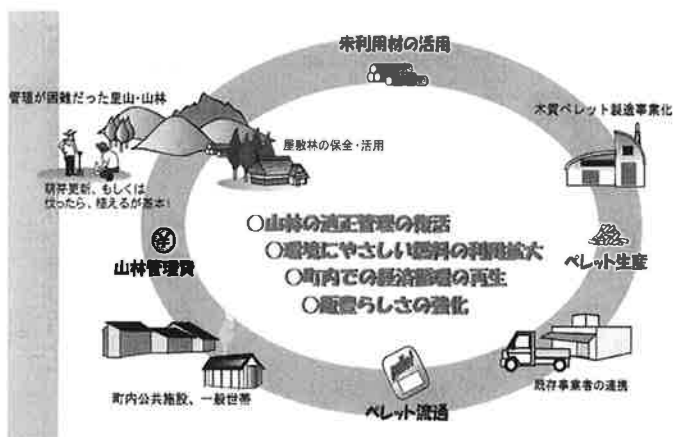
◆林地残材等集積事業とは

この事業は全国でも自伐林業として実践例のある『木の駅』を飯豊町らしくアレンジしたものと考えて頂ければイメージしやすいと思います。具体的には、西置賜ふるさと森林組合、中津川バイオマス株式会社と連携し、森林を所有する者自らが間伐作業等によって発生した木材を、

指定した集積所まで搬入すれば、一m当たり四千円（その内千円分は飯豊町商品券で支払う）で購入します。購入した木材は中津川バイオマス工場でペレットに加工され、冷暖房用燃料として地域循環されます。

◆これから

夢はエネルギーの地産地消であり、森林を所有する者、林業に従事する者、飯豊町に暮らす者皆が「森林」を介して豊かに暮らしていける制度として高めていくことです。まだまだ事業としての関心は低いですが、年間七〇mの集材を目標としています。飯豊町全面積の約八四％が森林です。資源として豊富な「森林」の利用を今後も積極的に推し進めていきます。〔飯豊町農林振興課〕



地域の森林・林業や木の良さをPR！

庄内地方で、秋の恒例行事として定着した「庄内森とみどりのフェスティバル2014」が、今年も鶴岡・酒田の二会場で開催されました。

健全な森林づくりや地域産木材等の利用について、県民の方々に広くPRするため、鶴岡会場は「つるおか大産業まつり」、酒田会場は「酒田市農林水産まつり」との同時開催となりました。



【鶴岡会場】

鶴岡市長の挨拶の後、山伏によるホラ貝の合図と共に各ブースが一斉にスタート。森林林業緑化功労者表彰のほか、恒例の上棟式、木工品や特用林産物の展示販売、木の良さを身近に感じてもらう木工教室や木工クラフトづくり、丸太釣り競争、丸太切り体験など、体験型ブースを設けました。天候にも恵まれ、子供から大人まで二日間で二万八千人（つるおか大産業まつり含む）の方が楽しんでいきました。

- ・開催場所 鶴岡市小真木原公園
- ・開催日 十月十八日～十九日
- ・来場者 二八、〇〇〇人
- ・併催行事 山形県技能まつり、庄内フラワースhow

【酒田会場】

鶴岡会場に続き、例年はない好天に恵まれた酒田会場。イベントの定着も相まって、お客さんは大入りとなりました。

毎年恒例の緑化樹配布や椎茸のプ

レゼントのほか、「海からの贈り物」として、サザエやトビウオ出汁うどんのふるまい、農林水産まつりの「酒田ご当地アレンジおにぎりアイディアコンテスト」のおにぎり試食が行われ、山のめぐみだけでなく酒田の海のめぐみも堪能できるお祭りとなりました。

- ・開催場所 酒田市中町商店街
- ・開催日 十月二十六日
- ・来場者 三五、〇〇〇人
(農林水産まつり含む)



【森林林業緑化功労者の紹介】

この表彰は、平成二十年度から始まり庄内地方の森林・林業の振興及び緑化推進に顕著な功績があった個人や団体を表彰するものです。

本年度、この栄えある賞を受賞された、鶴岡市五十川の本間文夫氏と鶴岡市榎代の五十嵐義一氏をご紹介します。

本間文夫（ほんまふみお）

鶴岡市生産森林組合連絡協議会長として各組合間の情報交換や研修活動等を積極的に開催し、近年はコンテナ苗を利用した低コスト造林に取り組む等、新たな森林整備技術を積極的に推進されました。

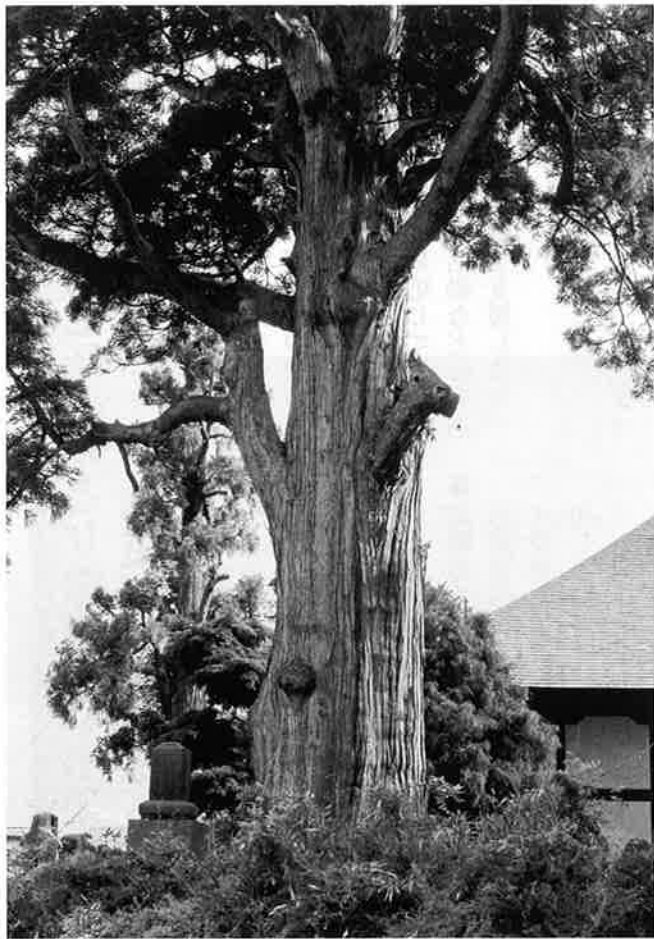
五十嵐義一（いがらしぎいち）

温海町森林組合総合班長として、生産班の機械化や素材生産体制の強化に尽力しつつ、檜代生産森林組合長として、地域の森林境界の明確化や路網の整備、森林施業の集約化の推進に尽力されました。

【おわりに】

このフェスティバルが、地域の森林や木を身近に感じる良い機会となり、地域産木材の利用拡大につながることを期待し、今後も引き続き開催したいと思います。

〔庄内総合支庁 森林整備課〕



臥龍山西常得寺のスギは、夕方の天候の変わり目などに、よく木の上部が煙に覆われたように霞んで見えることがあり、昔の人は狐や狸の仕業と恐れられたことから、通称「化杉（ばけすぎ）」と呼ばれています。

高さ五〜七mで幾本にも枝分かかれし、数本が主幹と並列し伸びています。根周り九・二三m、幹周り六・六一m、樹高約二〇m、樹齢七百年前後といわれ、平成七年四月二十七日に市の天然記念物に指定されました。

〔山形県森林協会〕



(案内略図)



外観

完成年度 平成25年度
 延床面積 97㎡・95㎡
 構造 木造二階建て

特徴 平成23年度（1棟）から毎年2棟建築している。建築に「もがみ北部商工会戸沢支部の工業部会」の会員が参画し、入居者等の意見を取入れると共に、会員の技術を出し合い、毎年住みやすさを追求し続けている。

太陽発電設備（5Kw）、非常用発電機を配備し、使用木材の大部分を県産材としている。今後も年間2棟を建築する予定となっている。

公共木造施設 86

戸沢流定住モデル住宅
 最上郡戸沢村向名高



内部

お知らせ

平成二十七年年度みどり環境公募事業 募集開始のお知らせ

本県の豊かな森林を県民共有の財産として、健全な状態で未来に引継ぐためには、県民の皆さんの森づくりへの参加が不可欠です。

このため、地域住民やNPO、企業等が地域のニーズに応じて取り組む自主的な森づくり活動などの提案を公募し、その活動を支援します。

◆募集期間

平成二十七年一月五日(月) から二月九日(月)まで

◆対象となる団体

- ・NPO法人、企業、私立学校等の法人格を有するもの
- ・PTA、自治会等の地域団体
- ・その他各種任意団体

◆対象となる事業

【一般助成】

- ①森林・自然環境学習
- ②自然環境の保全活動
- ③豊かな森づくり活動
- ④森林資源の利活用

【テーマ助成】

- ①森づくりと一体となった木質バイオマスの利活用
- ②里山資源の活用と交流
- ③暮らしの中に木を使う

◆補助金額及び補助率

- ・活動に要する経費

- ・10分の10以内で補助します。
- ・一事業に対する補助金の上限

一般助成…50万円
テーマ助成…150万円

◆応募方法

- ・募集要領や応募書類は、各総合支庁森林整備課森づくり推進室で配布しています。また、山形県のホームページでもダウンロードできます。

- ・募集期間内に各総合支庁森林整備課森づくり推進室へ応募書類を提出してください。

◆お問い合わせ先

- 【村山】村山総合支庁森林整備課
電話(〇二三) 六二一―八二四八
- 【最上】最上総合支庁森林整備課
電話(〇二三三) 二九一―一三五〇
- 【置賜】置賜総合支庁森林整備課
電話(〇二三八) 三五九―九〇五三
- 【庄内】庄内総合支庁森林整備課
電話(〇二三五) 六六一―五五二四
(県みどり自然課)

訂正 一五四号四ページ二段八行
誤：細野副知事 正：細谷副知事

森林やまがた 一五五号

平成二十七年一月一日発行(隔月発行)
編集・発行 山形市松栄一丁目五番四一号 山形県森林協会

監修

山形県農林水産部
印刷所 渡辺印刷

定価 二八八円

総合電設業

ダムの電気からご家庭の電気・電気通信まで

(株) 渡会電気土木

代表取締役 渡会 昇

(本社) 鶴岡市下山添字一里塚36

(田代工場) 鶴岡市田代字広瀬16-2

☎57-2454(代) FAX57-2345

☎57-4778(代) FAX57-4786

営業所：酒田・山形・米沢・新庄・仙台・酒田共同火力事務所

—全国食用きのこ種菌協会会員—

〒999-7757

山形県東田川郡庄内町払田字村東17-2



株式会社
河村式種菌研究所

お問い合わせは：電話 0234(42)1122(代)
FAX 0234(42)1124

東北みちのくの珍味

トビマイタケ菌床
まいたけ 樽木

庭先でも栽培
できます。



きのこ種菌 しいたけ・なめこ・ひらたけ・むきたけ・かのか・くりたけ他